

白山ふるさと文学賞

第十一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生 作文の部 優秀賞

「努力の足跡」

鶴来中学校二年 坪川 小雪

私の夢はどんなことにも一生懸命取り組むことです。一見簡単そうに思えますが、とても難しいことだと私は思います。みなさんはどこかで諦めたり、少し手を抜いてもいいと思っただけではありませんか。私はありません。しかし、どこかでやる気がなくなったりすることは当たり前前のことです。だからといってどんなことにも手を抜いては前に進めなくなるのではないのでしょうか。

私は中学校に入り、小学校では関わったことのない剣道部に入部しました。初めは、部活の雰囲気になじめず、楽しそうという理由だけで入部を決意しました。部活の初めの方は、どんな事にも全力で頑張ろうという気持ちでいっぱいでした。しかし、時間が経つにつれて、私のやる気や一生懸命やろうという気持ちが薄れてきました。これは、私の技術が向上しないことからきた気持ちでした。一年生で剣道をしたことがなく、初めはこつが掴めなくてもしょうがないという気持ちもありました。しかし、私の周りの女の子は小さいころから剣道をしていました。また私の先輩は中学校で初めて剣道をしたけれどすぐく剣道が上手でした。私だけが剣道が下手で、周りに迷惑をかけているのではないかという不安に悩まされました。また私は、体力がなく部活中もすぐに体調をくずしたりしていました。そのようなことから私のやる気がどんどんなくなっていました。しかしそんな時、私のやる気呼び起こすあるきっかけが起きました。それはある言葉との出会いです。私の担任だった先生は、毎日学級通信を作ってくれていました。そしてあるとき、一枚の学級通信にこのような名言がかかれていました。それは、長州力さんの「努力しても報われない奴はいる。間違いない。ただ成功した奴は必ず努力している。」という言葉です。私はこの言葉と出会い、真つ暗だった道に「すー」と明るい光が差し込んできたような気がしました。そして私は、日々努力を重ね、先輩にも勝てるようになってきました。

中学生になり、勉強も難しくなってきましたよね。私の周りにも点数

が高い人がいて、いつもうらやましく思います。点数が高いのは、その人がただ普通に頭が良いという理由もあるかもしれませんが。しかし、点数が良いのは普通の授業を真面目にきいたり、積極的に発表したりして、一生懸命取り組んでいるからなのではないでしょうか。もしも、授業を全くきかずにテストを受けたら点数はどうなるでしょうか。きつと授業をきいているときよりも点数が低くなってしまわないでしょうか。また、私は今、点数だけに縛られた話をしましたが、本心に大事なものは点数ではありません。本心に大事なものは、その人が得ることができた知識の量なのではないでしょうか。問題一つ一つで配点が違いますよね。だから、その単元でその人がどれだけの知識を得ることができ、どれだけの知識を生活につなげることができたのかが大切だと思います。また、その他にも、その人がその単元でどれだけ一生懸命取り組んだのかも大切なことの一つになると思います。頑張った分だけ結果が返ってくると思いますよね。私は、本当にそうだと思います。なぜなら私はテスト勉強をいつも倍頑張ったから、納得できることや理解できた問題が多くなり、努力の分だけ、結果が返ってきたからです。

これらのことから私は、一生懸命取り組むということを夢にして今頑張っています。努力を積み重ねること、できることが増え、将来、自分のなりたいたいものになれると思います。将来、就職するときも同じです。努力しないと自分の行きたい道を歩けません。一生懸命取り組むという気持ちをいつも心に留めておくこと本心に一生懸命取り組むと思います。やる気があれば、行動に移すことだってできると思いますが。みなさんはこんなことをきいたことがありますか。「顔が笑顔になると心も自然に楽しくなる。」これは、どんなことにも置き換えることができます。だから、少し前にもかいた、「やる気があれば行動に移すことができる。」というのもそうです。顔から心に気持ちを伝えることができる。心から顔に気持ちを伝えることができる。顔から心に気持ちを

す。このようなことを意識してみることで、今まで苦手だったことが好きになるのではないのでしょうか。そして私はこの作文を通して、どんなことでも一生懸命取り組みれば、「絶対にできない」なんて言葉はなくなるということを知ってもらいたいです。だから、暗い情報が流れる今、どんなことでもいいので、一生懸命何かに取り組んでみてはどうでしょうか。きっと自分の中での明るいニュースになると思います。

